

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立稲生高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		学校・家庭・地域の連携のもと「社会に役立つ人材の育成」に取り組む学校 ～知・徳・体の調和がとれた教育実践をとおして～
(2)	育みたい資質・ 能力(育みたい 生徒の姿)【グラ デュエーション・ ポリシー】	・自分自身を見つめ直し、夢に向かって、何事にも精一杯挑戦する意欲的な生徒 ・基本的な生活習慣を身につけ、社会のルールやマナーを守り、命の大切さや他人を思いやる豊かな心を持ち、いじめ防止に取り組める生徒。 ・部活動や生徒会活動、学校行事などに積極的に参加し、コミュニケーション能力を高めることができる生徒。
	ありたい 教職員の姿	・目指す学校像の実現のために、一人ひとりの生徒の適性、能力に応じた学習指導や生徒指導において、カウンセリングマインドに基づき、粘り強く指導できる教職員。 ・風通しの良い学校風土と、相互の対話により、学校や生徒の課題を共有し、一致団結して課題解決を図るとともに、コンプライアンスの徹底に取り組む教職員。 ・自らの教育力の向上のために、ベンチマーキングや研修会等に参加し、「より意欲的に」教育活動に取り組むことができる教職員。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒> 安全・安心で快適な学習環境における、基礎学力の定着と希望進路の実現。学校行事や部活動の充実。 <保護者> わかりやすい授業による学力の向上と希望進路の実現。自己教育力と規範意識の醸成。部活動の活性化。 <地域社会> 生徒の公共心やマナーが育成され学校への信頼度が高まる。地域活動へ積極的に取り組める生徒の育成。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待 <保護者> 生徒や学校の適切な情報提供 <中学校> コース制や体育科での専門的な学習の理解。卒業生や学校の情報提供。 <地域社会> 開かれた学校。地域活動への参加と協力。地域に貢献できる人材の育成	連携する相手への要望・期待 <保護者> 本校教育活動への理解と参画。親と子のコミュニケーション。 <中学校> 効果的な指導のための情報共有と緊密な連携。 <地域社会> 本校教育活動への理解と協力(工業・介護実習、清掃活動、部活動)
(3)前年度の学校関係者評価など		・学校、教職員の取組は評価できる。 ・SNS 等での学校 PR が実を結んでいるので、今後も進める必要がある。	
(4)現状と課題	教育活動	・生徒の基本的な生活習慣や学習習慣を確立するため、家庭と連携を進めていくとともに、授業の改善に努め、組織的に教育活動に取り組んでいく必要がある。 ・人権教育や道徳教育等を充実させることで、人権を尊重する態度を育み、生徒が充実した学校生活を送ることができるよう取り組んでいく必要がある。	

	学校運営等	・地域と連携する活動においては、学校側も要望や提案を積極的に行い、地域貢献を図るとともに、生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、充実した活動となるように取り組んでいく必要がある。 ・総勤務時間縮減の取組をすすめるため、設定された上限時間を超えることのないように、業務内容や業務の分担方法を見直し、効果的、効率的に業務が遂行できるよう創意工夫を凝らしていく。 ・学校外への本校の取組の情報発信の方法を工夫する必要がある。
--	-------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・学科やコース制などの専門的な学習内容を充実させることで、より意欲的に生徒自らが学ぶ姿勢が身に付くようにする。 ・将来を見据えたキャリア教育をはじめとした進路指導の充実により、自己有用感や自己肯定感を高め、希望進路の実現と定着を図る。 ・正しい倫理観や道徳観を身につけ、他者を思いやり、人権を尊重する意欲や態度、いじめを許さない心、命を大切にする実行力を育成する。 ・一人ひとりの生徒の能力・適性に応じた授業内容の工夫や公開授業や授業研究を行う等の授業改善を進める。
学校運営等	・学校の魅力をPRするための広報活動を工夫改善する。 ・教職員が、意欲的に業務に取り組み、やりがい感・満足度を高めるため、会議の効率化・休暇の取得・部活動の効率化・定時退校日の設定などに取り組み、総勤務時間の縮減を図る。 ・教職員、保護者、地域との情報及び課題の共有化並びにコンプライアンスマインドの醸成をはかり、信頼される学校づくりに取り組む。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿【アドミSSION・ポリシー】	・本校の教育目標を理解し、自らの目標や進路の実現に意欲のある生徒。 ・成功も失敗も前向きにとらえ、課題解決に向け、意欲的に行動できる生徒。 ・基本的習慣を身につけ、社会のルールやマナーを守り、いじめ防止に取り組める生徒。 ・他者を尊重し、信頼される人間性を持つ生徒。
------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	学ぶことの興味関心が高まる取組 【活動指標】 ・基礎学力診断テストの実施(4月・9月実施) ・基礎学力向上トレーニング(1年)、朝読・漢字検定(2年)、就職試験に向けての強化対策(3年) ・授業満足度調査(生徒)を実施(年2回) 【成果指標】 ・生徒の満足度 90%以上	・各活動指標を実施(朝読は1年生の絵本読み聞かせ) ・図書館活性化プロジェクト ・基礎力診断テストは、各学年1、2学期に実施 ・就職対策として、勉強会や複数回の面接指導を実	◎

		施 ・満足度調査 89.2%	
キャリア教育の充実と進路実現	2年生のインターンシップの実施 ・自動車工業コース 介護福祉コースによる企業等実習 ・食物調理コース 大学 ・専門学校等との連携授業 【活動指標】 ・参加生徒の割合 20%以上 ・大学・専門学校等との連携授業 (体育科、食物調理コース 3 回以上) 【成果指標】 ・参加生徒の満足度 90%以上 ・企業の満足度 75%以上	・2 年生全員がインターンシップ実施 (7 月) ・自動車工業コース 企業実習 生徒満足度 92.3% ・介護福祉コース 施設における実習 ・食物調理コース 辻調理師専門学校 (9 月) ユマニテク調理製菓専門学校 (10 月) 三重調理専門学校 (11 月) 大徳屋長久和 (12 月) 鈴鹿地区みえ防災コーディネーター (2 月) 三重県茶業青年団「お茶の入れ方教室」(1 月)	
	進路ガイダンス、個別面談の実施 【活動指標】 ・1, 2 年生は年間 3 回以上、3 年生は年間 5 回以上 【成果指標】 ・希望進路実現 100%	ガイダンス ・1、2 年 10 回実施 ・3 年 11 回実施 個別面談 3 年 4 回 進路希望 98.7%	
体育科の活性化	体育科生徒による、市内小中学生を対象とした指導実習・学校行事運営への参画 【活動指標】 ・小中学校訪問 5 校以上 ・オープンスクール、体育祭の運営参画 ・体育・スポーツ系大学、専門学校への進学率の増加 【成果指標】 ・体育科生徒の満足度 90%以上 ・体育・スポーツ系大学、専門学校への進学率増 (令和 5 年度比)	・小中学校への出前授業 1 回実施 ・体育科満足度 93.4 % ・体育・スポーツ系大学、専門学校への進学者 1 名	
資格取得の促進	各種検定や資格の取得に向けた取組 【活動指標】 商業、情報関係資格取得、全商検定 2 級取得者の増加、 JSBA バッジテスト 3 級(スノーボード)、JFA 公認キッズリーダー サッカー 3 級審判免許 普通救命講習修了証 漢字検定、英語検定 ニュース検定、食物調理技術検定 介護職員初任者研修課程の修了 ガス溶接技能講習 アーク溶接技能講習 危険物乙種四類 【成果指標】	・JFA 公認キッズリーダー 15 名 ・サッカー 3 級審判免許 3 名 ・JFA 公認 D 級コーチライセンス 2 名 ・ビジネス文書実務検定試験 1 級 2 名 ・情報処理検定 2 級 6 名 ・簿記検定 3 級 6 名 ・ビジネス文書実務検定 3 級 11 名 ・情報処理検定 3 級 37 名	

	ビジネス文書、情報処理(2 級各 5 名以上) JSBA バッジテスト 3 級 スノーボード(合格 80%) JFA 公認キッズリーダー(合格 100%) サッカー3 級審判免許(合格 100%) 普通救命講習修了証(100%) 漢字検定(3 級合格 50%) 英語検定(50%)、ニュース検定 3 級 食物調理技術検定(2 級 70%・3 級 4 級 100%) 介護職員初任者研修課程の修了(90%) ガス溶接技能講習合格(100%) アーク溶接技能講習合格(100%) 危険物乙種四類(50%)	・普通救命講習 79 名 ・漢字検定 準 2 級 56% 3 級 25% ・食物調理技能検定 2 級 100% 3 級 4 級 100% ・介護職員 100% ・ガス溶接 100% ・アーク溶接 100% ・危険物乙四 20%	
基本的生活習慣や規範意識の醸成	全校集会、学年集会での訓話等による基本的生活習慣や規範意識の醸成 【活動指標】 ・全職員による全校集会指導 ・各学期 2 回以上の全体指導及び頭髪服装指導の実施 ・いじめ防止の取組 ○現職教育の実施、ピンクシャツ運動、いじめアンケート各学期 1 回、いじめネットアンケート 24 時間体制、いじめ防止ポスター作製 ・交通安全指導等の取組 ○自転車ヘルメット着用努力義務の推進(意識向上) ○盗難防止(ツーロックの推進) ○校外登下校指導(月：4 回) ・生徒会活動による朝の挨拶運動 ・生徒会による様々な強化月間の実施(隔月：1 回) 【成果指標】 ・学校遅刻 10%減(令和 5 年度比) ・特別指導件数 10%減(令和 5 年度比)	・頭髪指導 学期 1 回<いじめ防止> ・「いじめ対策アドバイザー事業」委員会 3 回 ・アンケート学期 1 回、ピンクシャツ運動月 1 回 ・現職教育 年 2 回 ・ツーロック推進(地元企業の協力のもと啓発活動) ・遅刻 28%減増 ・特別指導件数 3 件増	※
人権意識の育成	人権を尊重する意欲・態度と正しい道德観の育成 【活動指標】 ・講演及びソーシャルスキルトレーニング(SST)の実施 ・人権デーの実施 ・SNS 講話、避難訓練防災講話、献血セミナー活動、性教育指導 ・普通救命救急講習の実施(教職員) ・全教職員による命を大切にする教育及び講演の実施 【成果指標】 ・上記活動の実施し人権を尊重する意識の向上	実施した活動 SST、人権デー、SNS 講話、防災講話、献血セミナー、性教育講座、SC による研修	
部活動の活性化	運動部、文化部活動の奨励 ・県総体総合 15 位以内 ・全国・東海大会出場者、県内大会入賞者増(令和 5 年度比)	・県総体 男子 45 位 女子 20 位 ・全国大会出場者数 27 名 ・東海大会出場者数 48 名	
改善課題			
・基礎学力の向上や学習指導の定着を目指すとともに、自己有用感や自己肯定感を身につける。 ・キャリア教育を充実させるため、各種検定や資格の取得に積極的に取り組む。 ・基本的生活習慣を身につけさせるため、家庭との連絡を密にして、きめ細かい指導を行っていく必要が			

ある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学校の魅力化	体育科の充実と、地域社会に貢献できる人材育成を目指した普通科の特色あるカリキュラム 【活動指標】 ・地域と密着しスポーツを通じ交流を図る ・関係機関、団体との連携調整 ・ボランティアや地域活動に参加、協力	・体育科 大阪体育大学と連携した実習を実施 ・食物調理コース、生活部は、地域活動に参加 ・介護福祉コースは、ボランティア活動に参加	◎
授業力の向上及び資質向上	授業公開による授業改善、校内研修の実施 【活動指標】 ・授業公開、教員相互の授業見学を年間2回実施 ・中学校のICTを活用した授業を見学し、情報共有を行い授業の改善を行う 【成果指標】 ・授業満足度 80%以上	・年2回実施 ・ICT教育の一環として近隣中学校の授業見学実施 ・満足度調査 89.2%	※
情報発信による地域、保護者との連携促進	学校ホームページやSNS、すぐーるの活用による情報発信、地域活動との連携 【活動指標】 ・校内外の活動を随時、迅速に発信 ・ボランティアや地域活動に参加、協力 【成果指標】 ・ホームページ更新 随時	・Web 随時更新 ・SNS の閲覧者数 前年比 220 % ・PTA 地域清掃活動 ・地域イベント参加	
総勤務時間の縮減	※()内数は令和5年度 【活動指標】 ・月2回の定時退校日、定時退校できた職員(80%) ・週1日の部活動休業日を設定、予定どおり休養日の設定ができた部活動(90%) ・週1回の個人定時退校日の設定(70%) ・各種会議時間を60分以内に短縮(90%) 【成果指標】 ・1人当たりの月平均時間外労働時間 30時間以下の範囲内 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 50%減(令和5年度比) ・年360時間を超える時間外労働者の人数 0人 ・1人当たりの年間休暇取得日数(令和5年度比2日増)	・定時退校 88% ・部活動休業日 100% ・会議短縮 92.3% ・時間外 平均 15.4h 12月末時点 ・月45時間超 37人 14%減 ・年360時間超 2人 ・年休平均 13日(1月末時点)	
経費の効率的な活用	学校運営費の節減取組 【活動指標】 ・居室退室時のチェック徹底 ・経費節減について企画委員会等で意見交換 【成果指標】	・電気 92.4% ・水道 107.7% R7.1月末時点	

	・電気使用料 3%削減（令和5年度比） ・水道使用量 1%削減（令和5年度比）		
改善課題			
・教員が授業力向上を目的とし積極的な、他教科の授業見学を行い自己研鑽に努める。 ・ICT教育を推進するため、校内研修、他校種の授業見学を行い授業の質向上に取り組む。 ・教職員の総勤務時間縮減に向け、さらなる意識改革を深めながら業務の見直しを進める必要がある。			

6 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	・地域との交流に生徒が参加しているが、小学校への出前授業や読書の読み聞かせなど、さらに増やすよい。 ・地域との交流を、学校内でも生徒に発信するとよい。 ・学校遅刻に関し、進級した学年での増減を確認していく必要がある。 ・学校訪問時等、生徒が自ら挨拶ができているところは継続してほしい。
--------------------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	・生徒の基本的生活を確立するとともに自己肯定感、自己有用感、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけるよう、組織的に生徒指導に取り組んで行く。 ・人権教育や道徳教育を充実させることにより、人権を尊重し、相手を思いやる豊かな心を持った生徒を育成していく。 ・いじめは絶対許さない学校づくりを目指すため、研修会、講演会等積極的に行い、生徒・教員の意識を高める。
学校運営について の改善策	・地元の関係機関との連携を推進し、学校の活性化に努める。 ・校内研修会を充実させ、校外研修会への参加を奨励することで、教職員の資質向上を図る。